

12月17日のSDGs講演会をお聴きくださった皆様

拙い講演を、たくさんの皆様に聴いていただけたようで、心からお礼申し上げます。その時いただいた質問に十分にお応えできませんでした。私の分かる範囲で回答を書かせていただきました。ご覧いただければ幸いです。

波多野 純

■私の大学時代はまさにグローバル化や国際標準が目指すべき成長の姿であるという社会で、現在のサステナブルな社会に向かう流れにあっても無意識に発想がそこからきていることを感じます。先生のおっしゃる国際化のために個人として何から実践すればよいでしょうか。

<回答>

グローバル人材とは「英語を駆使し、明日海外赴任を命じられたらすぐに出かけられる人」と定義し、「それって今いる場所で、いなくなるとは困ると思われていない人ですね」と冗談を言いました。「英語を駆使」するグローバル人材とは、どこの国に出かけても英語が話せる比較的裕福な層とだけ交流し、その土地に根を下ろす意志のない人と言うこととなります。これでは相手を尊重する国際化は望めません。こんな奴らが高い収入を得ているんだよね・・・。

もうひとつ、20世紀モダニズム（機能主義と国際様式）の呪縛から抜け出すことです。「選択と集中、費用対効果」は経済界では一大正義です。でも多くのノーベル賞受賞者が、日本の基礎研究支援の貧困を嘆いてお出でです。明日の産業に結びつく、すぐ儲かる研究だけに研究費を出す今の学術支援政策に、大きな未来は期待できません。豊かな底辺をつくるのが、高い頂をつくる第一歩です。

「PDCA」も同様です。「計画→実行→検証→再実行」どこが間違ってるのか分からない、と考えられるかもしれません。でも、計画をそのまま実行できることなど希です。相手もいれば状況も変化します。柔軟に変化しなければ実行できないはずです。物事を単純化して分かりやすい構造にして理解するのは、20世紀の機能主義の悪い習性です。複雑系は複雑に理解することが大切です。

■復元技術の伝承はどのように進んでいるのでしょうか？匠の技術はどんどん失われていくように思われます。

■復元にかかわる技術者、（専業大工）は生活が成り立つのでしょうか？

<回答>

2020年、世界無形文化遺産に「伝統的建築工匠の技 木造建造物を受け継ぐための伝統技術」が登録されました。建造物修理。彩色・左官など17の職種が含まれています。

これらの職人さんたちは安定して仕事がないと食べて行けないし、次世代への継承もおぼつかなくなります。彼らの仕事をつくることも、私たちの仕事と考えています。

土蔵はなかなか造る機会に恵まれません。しかも土には地域性がありますから、全国を股に掛けるわけにも行きません。地元の土をよく知る左官屋さんを見つけ出し、彼に土蔵を作ってもらえれば、孫に技術が継承され、あと50年は蔵が作れます。

奈良に小林章男さんという人間国宝の鬼師（鬼瓦を作れる職人）がお出ででした。彼が高齢でなくなり、すでに技術を継承されていた息子さんが継がれましたが、倒産してしまいました。

バブルの時期、伝統的技術を持つ大工さんの給料が 28000 円/日、昨日仕事を覚えたばかりの型枠大工が 50000 円/日と言う、逆転現象が起きました。質のいい大工は同じ工務店に長期にわたり勤務しますので給料はあまり上がりません。いっぽう、型枠大工は高給をねらって転々と職場を変えると、人不足のため給料が跳ね上がったわけです。

奈良県や日光社寺など安定した職場を築いている地域もありますが、海外ビジネスが手を出すなど気になる状況もあります。

「すでに日本の大工技術は衰退した。これからは工場生産住宅（プレハブ）に頼るしかない」などという、雑な宣伝にのらないことです。40 年ほど前、外貨減らしの一環として北米材が大量に輸入され、2×4 が普及しました。日本の大工技術が衰えたのではなく、貿易摩擦解消政策の生け贄にされたのです。

■復元すべき建造物や対象が多数あるとき、どこから手を付けるか、何を優先するか、順番を決めるのに苦労されることはありませんか？

<回答>

1995 年の阪神淡路大震災のあと日本建築学会には、構造補強、避難経路など様々な委員会がつけられました。そこに文化財建造物の委員会はありませんでした。「6000 人の命と文化財とどちらが大切なんだ」と批判され、私のこれまでの仕事が全否定されたような情けない気持ちに陥りました。その後なんとか文化財関連の委員会はできたのですが、「何のための文化財か？」はずいぶん悩みました。ある時、避難住宅など物理的復興の次に必要なのは、昨日の暮らしが戻ってくること、コミュニティの復興だと気付きます。その核となるのが「記憶の風景」であり、記憶の風景の核として歴史的な建築があるはずです。

つまり優先順位は、地域の人々に愛されている建築を・・・、ということになります。私はいくつかの県や市で文化財審議委員をしていますが、文化財指定の優先順位は、困窮度だと考えています。建物の質は高いが結婚式場で儲かっている神社と、質はすこし下がるが氏子が減り修復もままならない神社があったら、後者を優先すべきだと主張します。失われてからでは遅いからです。

■日本の復原城郭建築の多くは、RC 造のようですが先生はどうお考えですか？

<回答>

これは法律の問題に帰結します。RC 造の外観だけを復原した城郭建築が造られたのは、1960 年代から 70 年代です。この時期には、たとえ復原であっても現代建築ですから、現行の建築基準法に適合せざるを得ませんでした。木造では、13m の高さ制限など適合できない部分が多々あり、RC 造にせざるを得ませんでした。

1980 年代になり法改正がなされ、史跡内の復原建築も文化財建造物と同様に、建築基準法の適用除外を受けることができるようになりました。地域の建築審査会の同意と文化庁の復原検討委員会の許可という厳しい条件付きですが、木造復原が可能になりました。私が担当した足利学校がその第一号の予定でしたが、彦根城二の丸御殿に先を越されました。

今は外観ばかりでなく、構法、室内、素材などすべてについて、史実に忠実な正確な復原が求められますので、RC造の外観だけの復原は許されません。

適用除外であっても、建築基準法を越えるレベルの安全性を目指しています。足利学校では市街地で茅葺きを実現させました。そのためには、空気管などの火災感知器のほか、開発中の炎感知器を設置しました。また放水銃に加えて、屋根の棟から100mm/時の雨が降るドレンチャーも設置しています。

■復元と復原の違いを教えてください。

<回答>

「ふくげん」を広辞苑で見ると「復元・復原 もとにかえすこと。もとの位置・形態にもどすこと。『古代住居の一』『環境の一』」とあります。竪穴住居は各地の遺跡公園に復原されていますが、遺構はひとつもありません。研究成果に基づく復原ですが、その見解は大きく変化しています。正確性をめざす決意として、私は「復原」を多く使いますが、役所では「復元」が増えているようです。

その正確性も、目的に沿って考えなければなりません。私は江戸の町の復原模型をいくつか造っていますが、それに「火を付けてみよう」と冗談を言ったことがあります。江戸の大火の実証実験ができるのではないかと言うことです。それは無理です。素材も違いますから。

■よりベストな修復と言われたときには、どのような観点を大切にしていますか。

<回答>

日本の文化財修理技術は高い水準で定着していますから、大きな幅はありません。私は痕跡調査などから当初の姿が甦り、それを建てた職人の気持ちが垣間見えた時、充実感を感じます。

ただ、ベストな修復に世代間格差があることは感じます。阪神淡路大震災の後の日本建築学会で「構造補強」の必要性を訴えた時には、大先生たちが「私たちが守ってきた文化財をお前たちの世代が破壊するのか」という厳しい目でられました。そして近年、様々な新素材が文化財現場にも登場しています。私などは「新素材が200年持つと保証できるのかな」と心配になりますが、旧世代になったと言うことでしかないかもしれません。

■金がない時の工夫とは？どのような工夫がありますか

<回答>

それぞれの建物や環境の特性に合わせて考えることだと思います。ただ、歴史的な建物や環境の保存・再生に資金が必要となった場合、観光と食べ物に頼るのは発想力が欠けています。建物は愛されて使われるのが一番の保存ですから、地域にあった豊かな発想による活用を考えるべきです。

■波多野先生、本日も貴重なお話を有難うございました。特に最後の原発の話が重く響きましたが、こうした負の遺産を残さないためには、バイオマスや地熱等、再生可能エネルギーの拡充が急がれると思います。これはご指摘いただいた、森林の持続的な活用とも深く関連すると思いますが、その関連性について、お考えがあればお聞かせいただけますか。

<回答>

とても難しい問題ですね。蓄電設備の不足から、太陽光発電の推進にブレーキを掛ける、買い取り価格を下げるなどの施策が聞こえてきます。太陽光発電の是非は置いておいても、志の低い議論であることが残念です。経済効率の土俵でしか議論できないのは、まさに 20 世紀を抜け出せていない証拠です。

私が考え得るのは、地域を狭くすることです。狭い地域で完結させ、その上で地域間のネットワークでリスクを回避することです。誰が造った電気かを知ることから始まると思います。

■今南アルプスを貫いて、リニア新幹線工事が始まっています。このリニア、今回のテーマからして、先生はどう考えられますか。わたくしは、大反対です、しかし、多くの流れは賛成派が多数と思われます。

<回答>

私も反対です。超高速で大都市を結ぶだけで、地域の活性化にはマイナスです。もっと、様々な地域を大切にすべきです。

環境破壊の面では、身近な沿線だけでなく、静岡県知事が反対しているように水系の破壊も考えられます。そんなことまでして、誰が喜ぶのだろう。

■本日のご講演の中で「貧しいことで、貴重な集落が残った」というお話は、大きな衝撃でした。ありがとうございました。

<回答>

やはり「志」が大切と言うことでしょうか。実は私は「志」があまり好きではありませんでした。明治維新の志士を思わせるからです。ところが、世界の大監督今村昌平さんと話しているとき彼が「それは志が低いからだよ」と言われたのが心に響きました。